

外人さん

外人さん

ポケット文春 543

1964 年 9 月 20 日 初版発行

定 価 230円

著 者 ^と戸 ^{つか}塚 ^{あや}文 ^こ子 ©

発行者 上 林 吾 郎

発行所 文藝春秋新社
東京都中央区銀座西8ノ4

印刷 凸版印刷
製本

Printed in Japan

落丁乱丁がありました場合はお取りかえします

文藝春秋新社

外人さん

戸塚文子

■ 目 次

こんにちは、外人さん

外人にもいろいろ・9

金持ばかりじゃない・14

白人コンプレックス・17

手まねも言葉のうち・21

■ ごつつえてエ・31

日本語には日本語・32

カキはカキ・38

シカゴのC・43

高低問答(住)・49

好き嫌い(食)・55

■ 風呂のはいり方・56

おみやげ用キモノ(衣)・60

花嫁はドイツ製・63

外人に強くなる法・66

接待のコツ・71

英語屋さん・77

拝啓おどろぼう様・81

不良外人対策・84

ところ変れば

レディー・ファースト楽じゃない・89

握手のタイミング・92

肌の露出も場所による・94

伏目がちも、ほどほど・95

ノー無しはこまる・97

人を見ればサンキュウと思え・99

思いやり・100

おせじ対策・104

花の役割・107

■エスコート・110

“バー”とはいえど・111

ニューヨークの出前・114

たし算・引き算―釣り銭逆も真なり・116

ノー・チップ天国日本・122

火打ち石流・124

日本流靴のはき方・126

ズボン下の怪・132

台所改造は主婦の改造・136

■日本通の外人・139

スーブの音・141

そだち変れば

夫婦茶碗・147

良心の象徴・150

政治が茶話・154

大魚・小魚・157

神様は一つ(?)・160

納税感覚・165

■玉子の食べ方・168

セパレート・170

危険感覚・174

厳守と融通・179

見た目と目盛り・183

ワン君もどうぞ・185

江戸の花・188

人類は一つ・191

鉄と石・193

東は西・196

あなたも外人

ホテル、ピンからキリ・201

見物のヒント・205

地球を歩くミス・ウォーカー・209

古典英語・212

■日本では英語が話しにくい・216

外遊ゴルフ・217

PRもジェット型・218

留学熱・223

外国での日本人どうし・226

あとがき・229

こんにちは、外人さん

外人にもいろいろ

「外人はみんな、アメリカ人と、思っているんですね、日本人は」
あるフランス人が、いった。

これは戦後、日本にきたアメリカ人以外の各国人にとって、共通の不平らしい。

「だって、占領軍として、あんなに大量にアメリカ人がきて、長い間いたんだから、しかたがないでしょ。初めて自分の目で見た外人が、アメリカ人だったっていう人だって、たくさんいるのよ」

と、私は一応、抗弁した。だが先方は、それくらいでは、なっとくしない。占領は終わったことだし、この抗弁は、説得力が、乏しかったようだ。

考えてみれば、私たちだって、中国人や、朝鮮人や、タイ国人と、間違えられるのは、ステキなことではないのである。それらの国々への好き嫌いなどと関係なく、やはり正しい認識をもつ

て、見てもらいたいのは、人情であろう。

一目で相手の国が、見破られれば理想的だが、その国で暮した経験でもない限り、無理というものだ。私はそのフランス人に、たずねた。

「私たちがどうすれば、あなたは満足して？」

「わからなかったら、率直にきいてほしいよ。とにかく、頭からアメリカ人と、きめてかかる態度が、いやなんだ」

という返事だった。

誇り高きフランス人だけに、よほど頭へきたらしい。しかし大なり小なり、みんなそういう感じを、受けるだろうことは、察しがつく。

白人ばかりではない。インドとパキスタン、東南アジアの国々、ましてアフリカにじゃんじゃん独立しつつある国の人など、とうてい、外見だけで区別するのは、困難である。

わからなければ、きけばいい、という。そうには違いないが、きいて答えられてからも、まだ、安心はできない。いわれた国や民族を、まるで知らないことだって、あるからだ。

私がヨーロッパへ出かけると、国籍不明になる。インド人かときかれたり、南米から来たのかと、いわれたりする。パリのタクシーの運転手は、乗るなり、

「エスパニョール（スペイン人）？」

と、声をかけてきた。

ロンドン郊外のハイヤーの運転手さんは、驚いたことに、日本という国さえ、知らなかった。英国人らしい謹厳な態度で、うやうやしく、

「どこからきたか？」

ときくので、私は、

「東京よ」

と答えた。エッピングの森などを、一日ドライブしたあとだから、当然、日本人ということくらい、わかったろうと思ったからだ。「どこから」を、日本の中のどこから、という意味に、私はとったのだ。相手はしばらく、考えこんでいた。

「まことに失礼でございますが、トーキョーというのは、どこにあるのでございましょうか」
「ああ。トーキョーは日本にあるのよ。日本の首都だわ」

彼はまた、しばらく考えた末にいった。

「マダム、まことに失礼でございますが、その日本というのは、どのへんにございますのでしょう」
う」

私は一瞬、困ってしまった。戦争までした仲なのに、知らないとは、妙な話だ。からかったのかと、顔を見たが、そうではない。日本軍にうらみでもあって、わざと復讐しているのか。

いや、そんなはずはない。誠実と実直の固まりみたいに、気まじめな人がらなのは、一日つき合
って、わかりすぎるほど、わかっていた。

ほんとうに、知らないに違いない。私たちだって、自分に直接関係のない国で、地球の反対側
にでもあれば、気にもとめずに、一生を送ることもある。地理の先生か、外交官でもない限
り、それでいいのである。そう私は思いなおした。先方がまじめなら、こちらも大まじめといこ
う。

「あなた、失礼ですけれど、チャイナという国を、ご存じかしら？」

「はい、知っております」

「あの大陸の東側の海の中に、ちょうどあなたのお国のような、島国があるの。地図にあったの
を、思い出さないかしら」

「はい、あったような気が致します、マダム」

「ね、気がしてきたでしょ。あれよ。あれが日本でございます。おぼえておいて下さいね」

「はい、決して忘れるは致しません、マダム」

私はふと、わが国はれっきとした独立国であることを、何とかこの人に、印象づけたかった。
それには貨幣がいちばんいい。

羽田を出る時、うっかりレインコートのポケットに入れて、持ってきていた十円玉が、あった

のを思い出した。一つ、進呈することにしたのである。

彼はややしばらく、十円玉を見つめていた。

「これは、いかほどぐらいの、価値のあるものでしょうか？」

「二ペンス半くらいですよ。例えば公衆電話をかける時は、これを入れるわけね。記念にとっておいて下さらない」

「ありがとうございます。ではこちらのと！」

いいながら、ポケットをさぐって、英国のお金を出そうとする。交換するつもりとは、お固いことだ。

「いいえ、ここでは役に立たないものを、差上げるのですから、代えて下さらなくて、結構。ただ、私の国を覚えて頂くための、しるしなんですから」

「はい、わかりました。ありがとうございます。長く家宝に致しますです」

オーバーな表現を、オーバーに感じさせないきまじめさでいって、ポケットへ収めた。

この出来ごとが、私に教えてくれた。国籍をたずねる時には、ていねいに、恐縮しながら、きけばいい。そしてもしも、いわれた国を知らなかったら、知ったかぶりをしないで、率直に、しかし恐縮しながら、知らないといえればいい。

こちらが無知でございますと、恐縮しながら、教えを乞えばいい。恐縮といっても、変に卑屈

になることではない。もみ手ヘラヘラの必要は少しもない。かのロンドンの運転手氏のように、謹厳、きまじめに、しかも背骨はまっすぐ、胸を張って堂々と、質問すればいい、と知った。

金持ばかりじゃない

「アメリカ人だって、金持ばかりじゃないんだ」

この言葉を、私は何度きいたか、しれない。

「私たちはアメリカのツーリストみたいに、金持じゃないんだ」

この方は、ヨーロッパ人が、よくいうセリフである。

表現こそ違え、どちらの場合も、ねらうところは唯一つ。「高いものを、あてがってくれるな」という予防線である。あるいは高いものを、とかく、押しつけられることへの、不満の声である。

外人には、遙々やってきたエトランゼとして、特別扱いしてほしい気持と、またその逆に、外人扱いされたくない気持、とがある。ことに、外人扱いされたくないのは、物の値段についてであらう。

もしも同じ品物を、日本人が買う場合と違う、割高な値で、売りつけられたら、腹が立つにき

まっている。人によっては、そういう目に、合わされた国を、一生、好きにならないかもしれない。いい。

知識が乏しい、という足元につけこんで、そんな悪もうけを、するのはもちろんよくない。だが、そんな悪気ではなくて、好意かえって、仇となる例もある。

粗末なものでは、悪かろうと、思う気持だ。それでつい、商店などでも、外人とみると、上等のものを、出してしまう。

「もっと安いのは、ありませんか」

といわれても、

「おあいにくさま」

と、答える。「おあいにくさま」のあとには、「われわれが使うのはありますが、あなた様のような、外人さんに向いたのは、ありません」という意味が、言外にこめられているのである。

ところが、「言外」だの「ふくみ」だのは、外人には通用しない。「ない」というのは、「絶対にない」ことなのである。だから、もし、かりに、国内日本人用のなら、安いがあると、わかったあかつきには、店員がウソをついたことになる。相手を尊敬し、大いに高く評価したつもりが、これでは逆効果というものだ。

私たちが旅先で、けっこう、くだらない安物のガラクタを、買うように、外人だって、安物の